

〔A類社会コース，A類現代教育実践コース環境教育プログラム，B類社会コース 対象〕

地理総合 解答例

令和8年度 一般選抜前期

I

問1 1 投影 2 距離 3 目的 4 主題 5 国土基本

問2

- (1) 直線の名称は大圏航路（大円航路，大円コース）であり，Aともう1点を結ぶ最短経路である。
- (2) Cの方位は北西であり，距離は約10,000 kmである。
- (3) Dは西経100°，Eは西経80°に位置する。両地点の経度差は180°であり，両点を結ぶ線上には極点がある。したがって，DとEは南北の位置関係にある。両地点とも北半球に位置するので，DはEから見て北の方向にある。したがって方位は北になる。
- (4) 地図の外周円は，Aから地球上で最も遠い地点で，Aの真裏にあたる地点を示しており，これを（Aの）たいせきてん対蹠点という。Aからどの方向に直線を引いても，最終的にはこの地点に到達するため。
- (5) GとHは同一経線上にあるため，両地点を結ぶ経路は大圏航路（最短経路）になる。緯度差が60°であるので，距離は $40,000 \text{ km} \times 60/360 = 6,667 \text{ km}$ となる。一方，FとIは同一緯線（北緯60°）上にあり，経度差は120°である。北緯60°では，緯線の長さは赤道の1/2となるため，距離は $40,000 \text{ km} \times 120/360 \times 1/2 = 6,667 \text{ km}$ となる。しかし，この緯線上の直線は等角航路であり，大圏航路（最短）ではない。実際の最短距離は6,667 kmより短くなる。したがって，GH間の距離の方が長い。
- (6) Jは東経105°，Kは西経75°に位置し，両地点の経度差は180°である。この場合，両地点を結ぶ最短経路（大圏航路）は北極点を通る。したがって，Kから見たJの方位は北極の方向，すなわち北である。

問3 5万分の1の地形図16枚の範囲を縮小してまとめた地図で，編集図と呼ばれる。

問4 神奈川県江の島は，干潮時には陸繋島となり，展望灯台などからトンボロ地形や海食崖などの特徴的な海岸地形を観察することができる。人口集積地である大都市圏に近く，3つの私鉄駅が利用できるなど公共交通によるアクセスも良好である。さらに，神社などの歴史的観光資源や水族館といった観光施設が充実しているほか，周辺の片瀬海岸では海水浴やサーフィンも楽しめる。このように自然・歴史・レジャー資源が集積していることから，多様な観光客を惹きつけている。

〔A類社会コース, A類現代教育実践コース環境教育プログラム, B類社会コース 対象〕

地理総合 解答例

令和8年度
一般選抜前期

地理総合 大問Ⅱ 解答例

問1

GNI が低い国の工業は主に発展途上国であり、食品や繊維製品など、大型の機械などの設備投資が不要な軽工業が中心で、付加価値が低いために、国民の所得は低い。逆に高い国の工業は主に欧米や日本などの先進国であり、大規模な設備投資を行う鉄鋼、機械、化学工業などの重化学工業が中心で、付加価値が高いために、国民の所得は高い。

問2 A ケニア, B フィリピン, C インド, D 韓国

問3 ア 技術 イ 経済特区 ウ 外国企業 エ 安価 オ 労働力
カ 世界 キ 所得格差 ク 中間所得層

問4

アメリカ合衆国では、20世紀初頭、五大湖の周辺において、鉄鉱石や石炭が産出することで鉄鋼業が盛んとなり、五大湖が有する運搬機能を活かしてデトロイトなどで自動車工業が発展した。そこで行われたベルトコンベヤを用いた生産方式は世界中の製造業に広まり、今日の大量生産・大量消費社会をもたらした。一方、1970年代以降には産業構造の転換によりデトロイトなどでは失業者も増えてフロストベルトと呼ばれたのに対して、南部の温暖で快適な地域はサンベルトと呼ばれ、シリコンバレーなどでは、有名大学の存在などにより優れた人材が世界中から集まった。そこではGAFAなどのICT産業や航空宇宙産業などの先端技術産業が盛んとなり、商品をインターネットで購入するなど世界中の人々の消費生活にも大きな影響を与えている。

問5

EUとしての統合により国内総生産GDPではアメリカに次ぐ経済圏となった。EUからの補助金により、東ヨーロッパでは高速道路などのインフラが整備されるとともに、EU内の国々の間で国際分業が進んだ。西ヨーロッパの企業の多くは安価な土地と労働者を求めて東ヨーロッパへ生産拠点を移転したため、産業の空洞化が課題となっている。一方、東ヨーロッパの労働者は高い賃金を求めて西ヨーロッパへ移動する人も増えている。イギリスでは、安価な労働力や移民の流入による社会保障費の負担増などの不安が高まり、EUを離脱した。

問6

E 遠方から輸送された F 近隣で生産された G 輸送のためのエネルギー
H 地域 I 季節 J 大量生産 K 人体

〔A類社会コース，A類現代教育実践コース環境教育プログラム，B類社会コース 対象〕

地理総合 解答例

令和8年度
一般選抜前期

III

問 1

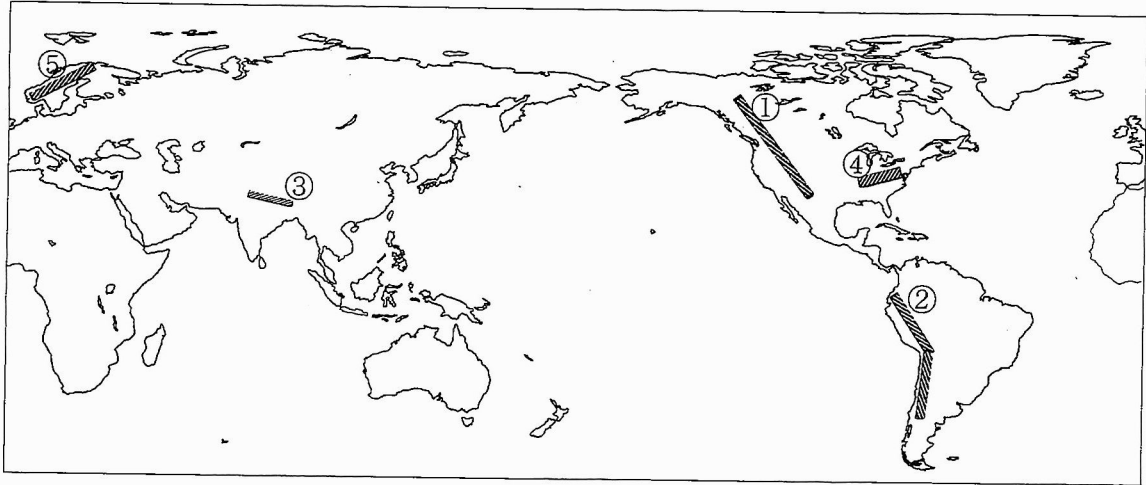


図 1

問 2

対応の説明 パリ協定の内容を踏まえている（近年は途上国の排出も多く，世界的に取り組めることなど），パリ協定の内容を踏まえて目標の達成にはどのような対応が必要か論理的に考えを示している（京都議定書では，目標の達成が義務化されていたが，パリ協定では，目標達成が義務とされていなく，意識の高さが求められること，再生可能エネルギーの導入を増やすこと，企業体や消費者の意識も重要なことなど）。

問 3

災害の説明 この熱帯低気圧（台風）は，大雨やそれによる洪水をもたらす。大雨は川の氾濫や土石流，がけ崩れや地すべりなどの引き金になる。暴風域を伴うことも多く，沿岸では高波が発生する。低圧であることから，高潮が発生し沿岸域は特に留意が必要となる。このように，人々の生活や生命が脅かされるような自然災害が発生させ，都市化が進んだ地域では，急激な増水が生じ，道路や住宅が浸水しやすい。

対応の説明 台風は，発生域が遠いが，リモートセンシング（気象レーダーや衛星）により，発生や接近の状況が把握できるようになった。地形に関わる災害（地震や火山など）に比べ予測しやすい。したがって，気象情報などによる現状や予測情報の活用が極めて重要である。ハザードマップは，危険性がわかり事前の知識も必要である。将来の予測精度や気候変動の変化に併せ，時代による適切な情報活用の必要がある。

〔A類社会コース，A類現代教育実践コース環境教育プログラム，B類社会コース 対象〕

地理総合 解答例

令和8年度

一般選抜前期

問4

特徴の説明 沖積平野は、山地から河口にかけて河川によって運搬されてきた礫や砂、泥といった碎屑物土砂が堆積した平野で平坦である。具体的に、山麓には扇状地、平野部には氾濫原、沿岸である川の河口に三角州が形成されている。

災害の説明 沖積平野は、洪水や地震などの災害に対して脆弱である。また、河川の氾濫による水害が頻発し、大雨を伴う台風や梅雨前線により洪水が生じることも多い。さらに、周辺に山地が多いことから、大雨による土石流等の危険性もある。そして、地盤が軟弱であることから、地震の揺れも増幅されやすい。液状化などの地盤災害が発生しやすく建物の倒壊などの危険が高い。

問5

理由の説明 南極では、紫外線から生態系を守るオゾン層の破壊が指摘されていた。これは、フロンガス（CFC など）が原因とされている。紫外線の増加は健康被害にも及ぶ。そこで、国際的な取り組み、1987年に採択されたモントリオール議定書により、オゾン層破壊物質の生産と消費が規制された。個人でもフロンガスを使用しない商品の選択など適切な対応がオゾン層の保護に貢献することを示していると考えられる。